

ハイドン:オラトリオ「天地創造」Hob.XXI:2 (約110分)

Joseph Haydn: Die Schöpfung (The Creation) Hob.XXI:2

【第1部】Erster Teil

- 第1日 序奏 混沌の描写
Einleitung: Die Vorstellung des Chaos
レチタティーヴォ「はじめに神は天と地を創造された」(ラファエル、合唱、ウリエル)
Rezitativ: "Im Anfange schuf Gott Himmel und Erde" (Raphael, Chor, Uriel)
合唱付きアリア「いまや聖なる光の前に」(ウリエル、合唱)
Arie mit Chor: "Nun schwanden vor dem heiligen Strahle" (Uriel, Chor)
- 第2日 レチタティーヴォ「神はおおぞらを造り」(ラファエル)
Rezitativ: "Und Gott machte das Firmament" (Raphael)
ソプラノ独唱付き合唱「喜ばしき天使の群れは驚きをもって」(ガブリエル、合唱)
Chor mit Sopran solo: "Mit Staunen sieht das Wunderwerk" (Gabriel, Chor)
- 第3日 レチタティーヴォ「また神は言われた、『天の下の水は一つ所に集まり』」(ラファエル)
Rezitativ: "Und Gott sprach: Es sammle sich das Wasser" (Raphael)
アリア「泡立つ波をとどろかせて」(ラファエル)
Arie: "Rollend in schäumenden Wellen" (Raphael)
レチタティーヴォ「神はまた言われた、『地に青草と』」(ガブリエル)
Rezitativ: "Und Gott sprach: Es bringe die Erde Gras hervor" (Gabriel)
アリア「いまや野はさわやかな緑を」(ガブリエル)
Arie: "Nun beut die Flur das frische Grün" (Gabriel)
レチタティーヴォ「やがて天使の軍勢が」(ウリエル)
Rezitativ: "Und die himmlischen Heerscharen" (Uriel)
合唱「弦の調べを合わせよ」
Chor: "Stimmt an die Saiten"
- 第4日 レチタティーヴォ「神は言われた、『昼と夜とを分け、地に光を与えるため』」(ウリエル)
Rezitativ: "Und Gott sprach: Es sei'n Lichter an der Feste des Himmels" (Uriel)
レチタティーヴォ「いまや輝きにみちて、陽は光を放ちながら昇る」(ウリエル)
Rezitativ: "In vollem Glanze steigt jetzt die Sonne" (Uriel)
三重唱付き合唱「天は神の栄光を語り」
(合唱、ガブリエル、ウリエル、ラファエル)
Chor mit Terzett: "Die Himmel erzählen die Ehre Gottes" (Chor, Gabriel, Uriel, Raphael)

— 休憩 (20分) — Intermission

【第2部】Zweiter Teil

- 第5日 レチタティーヴォ「神はまた言われた、『水は、生命をもちゆれ動く生き物を』」(ガブリエル)
Rezitativ: "Und Gott sprach: Es bringe das Wasser in der Fülle hervor" (Gabriel)
アリア「力強い翼をひろげて」(ガブリエル)
Arie: "Auf starkem Fittige schwinget sich der Adler stolz" (Gabriel)
レチタティーヴォ「神は、大きな鯨とすべての動く生きものをつくり」(ラファエル)
Rezitativ: "Und Gott schuf große Wallfische" (Raphael)
三重唱「若々しき緑に飾られて」(ガブリエル、ウリエル、ラファエル)
Terzett: "In holder Anmut steh'n" (Gabriel, Uriel, Raphael)
三重唱と合唱「主は、その御力によりて大いなり」(ガブリエル、ウリエル、ラファエル、合唱)
Terzett und Chor: "Der Herr ist groß in seiner Macht" (Gabriel, Uriel, Raphael, Chor)

- 第6日 レチタティーヴォ「神はまた言われた、『地は生きものをその種類にしたがって』」(ラファエル)
Rezitativ: "Und Gott sprach: Es bringe die Erde hervor lebende Geschöpfe" (Raphael)
レチタティーヴォ「大地はただちにその胎を開き」(ラファエル)
Rezitativ: "Gleich öffnet sich der Erde Schoß" (Raphael)
アリア「いまや点は光にあふれて輝き」(ラファエル)
Arie: "Nun scheint in vollem Glanze der Himmel" (Raphael)
レチタティーヴォ「そこで神はその御姿にしたがって人間をつくられた」(ウリエル)
Rezitativ: "Und Gott sah jedes Ding" (Raphael)
アリア「威厳と気高さを身につけ」(ウリエル)
Arie: "Mit Würd' und Hoheit angetan" (Uriel)
レチタティーヴォ「そこで神が、つくられたすべてのものを見られたところ」(ラファエル)
Rezitativ: "Und Gott sah jedes Ding" (Raphael)
合唱と三重唱「大いなる御業は成りぬ」(合唱、ガブリエル、ウリエル、ラファエル)
Chor und Terzett: "Vollendet ist das große Werk" (Chor, Gabriel, Uriel, Raphael)

【第3部】Dritter Teil

- レチタティーヴォ「薔薇色の雲をやぶり」(ウリエル)
Recitativ: "Aus Rosenwolken bricht" (Uriel)
二重唱と合唱「おお主なる神よ」(アダム、イヴ、合唱)
Duett und Chor: "Von deiner Güte, o Herr und Gott" (Adam, Eva, Chor)
レチタティーヴォ「われらは創造主に感謝を捧げ」(アダム、イヴ)
Recitativ: "Nun ist die erste Pflicht erfüllt" (Adam, Eva)
二重唱「やさしき妻よ!おまえの傍にあれば」(アダム、イヴ)
Duett: "Holde Gattin! Dir zur Seite" (Adam, Eva)
レチタティーヴォ「おお幸いなる夫婦よ、持てるものより多くを欲し」(ウリエル)
Recitativ: "O glücklich Paar, und glücklich immerfort" (Uriel)
終結合唱「すべての声よ、主に向かって歌え!」
Schlusschor: "Singt dem Herren alle Stimmen!"

指揮・芸術監督: 佐渡 裕 Yutaka Sado, Conductor & Artistic Director

天使ガブリエル、イヴ: 幸田 浩子(ソプラノ) Gabriel, Eva: Hiroko Kouda, Soprano

天使ウリエル: 吉田 浩之(テノール) Uriel: Hiroyuki Yoshida, Tenor

天使ラファエル、アダム: キュウ・ウォン・ハン(バリトン) Raphael, Adam: Kyu Won Han, Baritone

合唱指揮: 本山 秀毅 Hideki Motoyama, Chorusmaster

合唱: ひょうごプロデュースオペラ合唱団 Produce Opera Chorus, Hyogo

オープニング記念第9合唱団 Opening Beethoven 9th Commemorative Chorus

管弦楽: 兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

字幕: 藤野 明子 Akiko Fujino, Sidetitles

2018 9/14(金)・15(土)・16(日) 3:00PM開演
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
文化庁 独立行政法人 日本芸術文化振興会

これさえ
見れば
わかる!

今回の聴きどころ

東条 碩夫(音楽評論家)

音楽で語られる天地創造の壮大な物語

世界は神により7日間で作られた(ただし7日目は休日)という、キリスト教の旧約聖書の「創世記」の、主として第1章を題材とした壮大なオラトリオ——それがこの「天地創造」である。

第1部と第2部では、混沌の中から天と地が創られ、海と陸が分けられ、太陽と月と星が創られ、人やいろいろな生き物が創られるまでの、第1日から第6日に至る「神のみわざ」が詳しく描かれる。そして第3部には最初の人間たちであるアダムとイヴ(エファ)が登場する。ただし、「女は男から造られた」という例の件については、歌詞の中にさり気なく触れられているだけであり、また「イチジクの葉」の件や「禁断の木の実」などの有名なあれこれの「原罪」についても一切触れられることはなく、ただ幸せな夫と妻として描かれるのみという、極めてあたたかい内容になっているのが特徴だ。

これらを彩るハイドンの音楽が、実に素晴らしい。有名な交響曲集よりあとの時期、彼の晩年の円熟期に作曲された傑作である。

必聴POINT

ライター
おすすめ!!

《多彩なアリアや合唱》

独唱者によるレチタティーヴォ(話し言葉にフシをつけたような手法)とアリア、大合唱が組み合わせられ、オーケストラの多彩で変化に富む響きとともに物語が展開されて行くのが聴きもの。

《劇的な天地創造の描写》

神の指示により「光」が出現した瞬間の管弦楽の最強奏による爆発、太陽が昇って来る場面での音の上昇、獣が地を這う場面での低音の唸りなど、音による情景描写もなかなかの鮮やかさ。

《アダムとイヴの音楽が美しい》

第3部では、幸せな夫と妻による愛の二重唱が中心になる。牧歌的な、極めて美しい旋律にあふれる叙情的な世界だ。そして最後は、独唱と合唱すべてが参加する大讃歌に盛り上がっていく。

第108回定期演奏会

PROGRAM
NOTE

曲目解説——
演奏をより深く楽しむために
東条 碩夫(音楽評論家)



ハイドン:オラトリオ「天地創造」Hob.XXI:2

初演:非公式初演 1798年4月29日 公開初演 1799年3月19日 いずれもウィーン

ハイドンの全作品中の最高峰「天地創造」

「オラトリオ」とは、もともとは宗教的あるいは道徳的な題材を劇的に扱った大規模な声楽曲^(注1)を指すが、18世紀末以降には、オペラと部分的に共通する音楽的特徴を備える作品も多くなり、さらに宗教的なものとは直接関係のない世俗的な内容を持つ作品も登場して来ている。

ハイドンは、4曲のオラトリオを作曲したとされている。大ざっぱに言えば、中期の「トピアの帰還」(1775年作曲)と、器楽曲から編曲した「十字架上のキリストの最後の7つの言葉」(1796年編曲完成)は完全に宗教的な作品であり、この「天地創造」(1797年~98年春作曲)は宗教的な内容と世俗的内容とを併せ持ったもの、そして農民の平和な生活を題材にした「四季」(1799年~1801年作曲)は世俗的な傾向のもの、と見てもそれほど間違いとは言えないであろう。

そしてこの最後期の「天地創造」と「四季」とは、ハイドンの数多くの作品の中でも、最高峰をなす存在という定評がある。すでに多くの交響曲(第104番「ロンドン」まで)の作曲に終止符を打ち、通算6年にもわたった英国旅行をも終り、ウィーンに居を定めて悠々たる生活を送っていたハイドンの、円熟の大作なのであった。

「光は彼方から!」とハイドンは叫んだ

「天地創造」は、英国滞在中の1792年に聴いたヘンデルのオラトリオ「メサイア」に大きな感動を受けたことが、その作曲のきっかけとなったといわれている。台本も、もともと英国で書かれたもので、その作者はトーマス・リドレーという人——だとかつては言われていたが、現在では詳細不明とされている。内容は、旧約聖書の「創世記」第1章とミルトンの「失楽園」とを巧みに組み合わせたものだが、ハイドンみずからウィーンに持ち帰ったその台本を、友人であるウィーンのアマチュア音楽家ゴットフリート・ヴァン・スヴィーテン男爵が「かなり自由に」ドイツ

語に訳したのであった。ちなみにこの男爵は、ハイドンのために、作曲の報酬や演奏会開催の費用まで役立てた人物でもある。

初演では、ハイドン自身が指揮した。後援者のひとりシュヴァルツェンベルク侯爵邸での非公式初演、およびケルントナートール劇場での一般公開初演のいずれも、聴衆に限りなく大きな感銘を与えたという。特に彼が世を去る前年、1808年3月27日にウィーンでこの曲が演奏された際には、序奏の「すると光があった」の個所でオーケストラが突然最強奏で輝かしく爆発した時、感動した聴衆から万雷の拍手が巻き起こり^(注2)、ハイドンも感激のあまり両手を天に向け、「彼方からだ!」と叫んだ、というエピソードが伝わっている。

曲は3部からなり、第1部と第2部では、ラファエル、ガブリエル、ウリエルの3人の天使が登場し、これらは「天地創造」の語り手としての役目を持っている。一方、第3部で登場するアダムとイヴは、みずから主人公として歌うという形を採る。

天地混沌から人間たちの愛の誕生まで

第1部

第1日 「はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。神は「光あれ」と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた……。——旧約聖書の「創世記」第1章の有名な冒頭の記述である。天地の混沌を表わす神秘的な、不安感を漂わせた序奏では、19世紀の音楽で多用される不協和音が早くも姿を見ている。そして、「すると光があった」の個所でオーケストラが突然最強奏でとどろきわたる瞬間の劇的な効果については、先に触れた通りである。

第2日 神が大空を造り、それを天と名づけたことが語られる。

第3日 神が地を創り、その地を海と陸に分け、多くの植物を誕生させたことが語られる。ラファエルのアリアでは、海が逆巻く描写なども織り込まれている。

第4日 神が太陽、月、星を創り、夜と昼とを司らせたことが語られる。ウリエルのレチタティーヴォの中に、フルートがゆっくりと上昇し、太陽が昇って行くさまが描かれる。その輝きの中で第1部を結ぶのが、3人の天使と合唱が加わった「天は神の栄光を語り」で、この「天地創造」の中で最も有名な曲である。

第2部

第5日 神が海と水の中に獣や生き物を創り、また空を飛ぶ鳥を誕生させたことが語られる。

第6日 神が地上に家畜や獣を誕生させ、また神の形に似せた人を創造し、男と女とに分けたことが語られる。「地を這う重い獣」の個所でコントラ・ファゴットがフォルティッシモで唸ったり、「虫が長い列をなして地を這う」の部分でラファエルが言葉を長くゆっくりと引き延ばしたりするあたりは、ハイドンらしいユーモアであろう。「人」の登場以降、音楽は次第に気高い雰囲気になり、最後は合唱「大いなるみわざは成就し」で高らかに結ばれる。

第3部

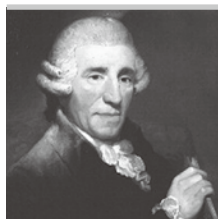
楽園に暮らすアダムとイヴの幸せな夫婦が主人公。2人のレチタティーヴォを挟んで2つの美しい二重唱がある。それを天使ウリエルが見守り、全ての者たちが神の偉大なみわざを讃える合唱で結んでいく。

(注1) 音楽之友社「音楽中辞典」より

(注2) この時代には、聴衆は感動した時、演奏の最中にも拍手をしいいいことになっていた。

楽器編成

ソプラノ独唱、テノール独唱、バリトン独唱、混声四部合唱、フルート3、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、コントラバスーン、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、ティンパニ、チェンバロ、弦楽5部



作曲家プロフィール

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン (1732-1809)

Franz Joseph Haydn

ハンガリーの国境に近い村ローラウに生れたオーストリア最大の作曲家のひとり。1761年からほぼ30年間、ハンガリーの大貴族エステルハージ侯爵家に仕え、副楽長、ついで楽長として、作曲、指揮、演奏などに活躍。フリーの立場になってからはウィーンに住み、英国にも演奏旅行、巨匠として尊敬を集めた。特に交響曲、弦楽四重奏曲、オラトリオは彼の神髓的作品である。モーツァルトからベートーヴェンへ時代が移行する中に在って音楽史上に不動の位置を占めた巨人。

Franz Joseph Haydn : Die Schöpfung

ハイドン：天地創造

対訳：藤野 明子(字幕作成)

Erster Teil

第I部

Einleitung : Die Vorstellung des Chaos**序奏** 混沌の描写

Rezitativ

<Raphael>

Im Anfange schuf Gott Himmel und Erde;
und die Erde war ohne Form und leer;
und Finsternis war auf der Fläche der Tiefe.

レチタティーヴォ

<ラファエル>

はじめに 神は天と地を創られた。
地上は空虚で形もなく
暗闇が深い淵の水面を覆っていた。

<Chor>

Und der Geist Gottes
schwebte auf der Fläche der Wasser;
und Gott sprach: Es werde Licht,
und es ward Licht.

<合唱>

神の霊気は 水の面に広がり
神が「光 あれ」と命じられると
光が!

<Uriel>

Und Gott sah das Licht, daß es gut war;
und Gott schied das Licht von der
Finsternis.

<ウリエル>

神は この光を良しとされ
光と闇を 分けられた。

Arie mit Chor

<Uriel>

Nun schwanden vor dem heiligen Strahle
des schwarzen Dunkels gräuliche Schatten;
der erste Tag entstand.
Verwirrung weicht, und Ordnung keimt
empor.
Erstarrt entflieht der Höllengeister Schar
in des Abgrunds Tiefen hinab,
zur ewigen Nacht.

アリアと合唱

<ウリエル>

いまや 聖なる光により
暗黒の汚れた陰は消え失せ
第一番目の日となった。
混乱は鎮まり 秩序が高らかに芽生えた
地獄の亡霊どもは立ちすくみ 逃げ出し
永遠に続く夜へと落ちていった。

<Chor>

Verzweiflung, Wut und Schrecken
begleiten ihren Sturz.
Und eine neue Welt
entspringt auf Gottes Wort.

<合唱>

絶望 怒り 恐怖は
それと共に崩れ去った。
こうして 新しい世界が
神の御言葉によって生まれた。

Rezitativ

<Raphael>

Und Gott machte das Firmament, und
teilte die Wasser, die unter dem Firmament
waren, von den Gewässern,
die ober dem Firmament waren,
und es ward so.

Da tobten brausend heftige Stürme;
wie Spreu vor dem Winde, so flogen die
Wolken.
Die Luft durchschnitten feurige Blitze,
und schrecklich rollten die Donner umher.
Der Flut entstieg auf sein Geheiß
der allerquickende Regen,
der allerverheerende Schauer,
der leichte, flockige Schnee.

レチタティーヴォ

<ラファエル>

神は大空を創り 天空の水を
空の下の水と 空の上の水とに分け
そして そのようになった。

すさまじい嵐が猛り狂う。
風に飛び散るもみ殻のように
雲は流れ飛ぶ。
激しい稲妻は 空を裂き
雷鳴がとどろき渡る。
御言葉により湧き出た水は
万物を活かす恵みとなり...
すべてを破壊する 豪雨ともなり...
そしてまた ひとひらの雪となる。

Chor mit Sopran solo

<Gabriel, Chor>

Mit Staunen sieht das Wunderwerk
der Himmelsbürger frohe Schar,
und laut ertönt aus ihren Kehlen des
Schöpfers Lob,
das Lob des zweiten Tags.

ソプラノ独唱付き合唱

<ガブリエル、合唱>

この神秘的な出来事を
天使たちは楽しみに さざめき眺めて
声をかぎりに 創造主を賛美して
第二日目を 讃えた。

Rezitativ

<Raphael>

Und Gott sprach:
Es sammle sich das Wasser unter dem
Himmel zusammen an einem Platz, und
es erscheine das trockne Land;

レチタティーヴォ

<ラファエル>

神は言われた。
「空の下の水は ひと所に集まり
乾いた地よ いでよ」と

und es ward so.
Und Gott nannte das trockne Land: Erde
und die Sammlung der Wasser nannte er
Meer;und Gott sah, daß es gut war.

Arie

<Raphael>

Rollend in schäumenden Wellen
bewegt sich ungestüm das Meer.
Hügel und Felsen erscheinen;
der Berge Gipfel steigt empor.
Die Fläche, weit gedehnt,
durchläuft der breite Strom
in mancher Krümme.
Leise rauschend gleitet fort
im stillen Tal der helle Bach.

Rezitativ

<Gabriel>

Und Gott sprach:
Es bringe die Erde Gras hervor,
Kräuter, die Samen geben,
und Obstbäume, die Früchte bringen ihrer
Art gemäß, die ihren Samen in sich selbst
haben auf der Erde;
und es ward so.

Arie

<Gabriel>

Nun beut die Flur das frische Grün
dem Auge zur Ergetzung dar;
den anmutsvollen Blick erhöht
der Blumen sanfter Schmuck.
Hier düften Kräuter Balsam aus;
hier sproßt den Wunden Heil.
Die Zweige krümmt der gold'nen Früchte
Last;

そして そのようになった。
神は その乾いた地を『陸』
水の集まった所を『海』と名付けられた。
神はそれをご覧になり 良しとされた。

アリア

<ラファエル>

泡立ち 逆巻く波に
海は激しく荒れる。
丘と岩が現われ
山の頂は 空高くそびえ立つ。
平野は はるかに広がり
大河は曲りくねり 流れゆく。
静かに せせらぎの音をたて
澄んだ小川が 人知れず谷を流れる。

レチタティーヴォ

<ガブリエル>

神は言われた。
「地に 草と 種を採る草
実を付ける多様な果樹を生み出せ」と。
種は 地の上に落ち
そして そのようになった。

アリア

<ガブリエル>

今 野には
目も鮮やかに新緑は萌え
こちよい眺めに
優しい花が 彩りを添える。
草の香りかぐわしく
傷をいやす薬草が芽生える。

hier wölbt der Hain zum kühlen Schirme
sich; den steilen Berg bekrönt ein dichter
Wald.

Rezitativ

<Uriel>

Und die himmlischen Heerscharen
verkündigten
den dritten Tag, Gott preisend und
sprechend:

Chor

Stimmt an die Saiten, ergreift die Leier!
Laßt euren Lobgesang erschallen!
Frohlocket dem Herrn,
dem mächtigen Gott!
Denn er hat Himmel und Erde
bekleidet in herrlicher Pracht.

Rezitativ

<Uriel>

Und Gott sprach:
Es sei'n Lichter an der Feste des Himmels,
um den Tag von der Nacht zu scheiden,
und Licht auf der Erde zu geben;
und es sei'n diese für Zeichen und für
Zeiten und für Tage und für Jahre.
Er machte die Sterne gleichfalls.

Rezitativ

<Uriel>

In vollem Glanze steigt jetzt
die Sonne strahlend auf;
ein wonnevoller Bräutigam,
ein Riese stolz und froh
zu rennen seine Bahn.

見事な実りに 枝はたわみ
小高い森は 涼しい天蓋をつくり
緑濃い森の冠のように 峰がそそり立つ。

レチタティーヴォ

<ウリエル>

天使たちは集まり 三日目を告げ知らせ
神を讃えて言った。

合唱

調子を合わせ 豎琴をとれ
讃歌を鳴り響かせよ。
歓呼の声をあげよ 全能の神に!
神は 天と地とを
麗しく華やかに創られた。

レチタティーヴォ

<ウリエル>

神は言われた。
「天空に光を 昼と夜を分けるため
地上に光を」と。
光は 季節と歳月を示すように... と。
そしてまた 星もつくられた。

レチタティーヴォ

<ウリエル>

輝きを増し
太陽は今 晴れやかに昇る。
喜びあふれる この花婿
生気に満ちた巨人は
天の軌道を堂々と突き進む。

Mit leisem Gang und sanftem Schimmer
schleicht der Mond die stille Nacht hindurch.
Den ausgedehnten Himmelsraum
ziert ohne Zahl der hellen Sterne Gold,
und die Söhne Gottes
verkündigten den vierten Tag mit
himmlischem Gesang,
seine Macht ausrufend also:

ゆるやかに ひそかな光りを放ちながら
月は 静かな夜を漂いゆく。
広大な宇宙を飾る
無数のきらめく星
神の子らは
賛美の歌で四日目を告げ
声高らかに 神の御業を知らせる。

Chor mit Terzett

<Chor>

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes.
Und seiner Hände Werk zeigt an das
Firmament.

<Gabriel, Uriel, Raphael>

Dem kommenden Tage sagt es der Tag;
die Nacht, die verschwand, der folgenden
Nacht.

<Chor>

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes;
und seiner Hände Werk zeigt an das
Firmament.

<Gabriel, Uriel, Raphael>

In alle Welt ergeht das Wort,
jedem Ohre klingend,
keiner Zunge fremd.

<Chor>

Die Himmel erzählen die Ehre Gottes,
Und seiner Hände Werk zeigt an das
Firmament.

三重唱付き合唱

<合唱>

天は 神の栄光を語り
大空は その御手のわざを示す。

<ガブリエル、ウリエル、ラファエル>

この奇跡を 日は日に告げ
夜は 次の夜にと語り継ぐ。

<合唱>

天は 神の栄光を語り
大空は その御手のわざを示す。

<ガブリエル、ウリエル、ラファエル>

知らせは 全世界に響き渡り
あらゆる耳が聞き 口々に語り伝える。

<合唱>

天は 神の栄光を語り
大空は その御手のわざを示す。

Zweiter Teil

Rezitativ

<Gabriel>

Und Gott sprach: Es bringe das Wasser
in der Fülle hervor webende Geschöpfe,
die Leben haben, und Vögel, die über der
Erde fliegen mögen in dem offenen
Firmamente des Himmels.

Arie

<Gabriel>

Auf starkem Fittige schwinget sich der
Adler stolz, und teilet die Luft im
schnellsten Fluge zur Sonne hin.
Den Morgen grüßt der Lerche frohes
Lied, und Liebe girrt das zarte Taubenpaar.
Aus jedem Busch und Hain erschallt
der Nachtigallen süße Kehle.
Noch drückte Gram nicht ihre Brust,
noch war zur Klage nicht gestimmt ihr
reizender Gesang.

Rezitativ

<Raphael>

Und Gott schuf große Wallfische
und ein jedes lebende Geschöpf, das sich
beweget, und Gott segnete sie, sprechend:

Seid fruchtbar alle, mehret euch!
Bewohner der Luft, vermehret euch,
und singt auf jedem Aste!
Mehret euch, ihr Flutenbewohner,
und füllet jede Tiefe!
Seid fruchtbar, wachset, mehret euch!
Erfreuet euch in eurem Gott!

第Ⅱ部

レチタティーヴォ

<ガブリエル>

神は言われた。
水には うごめく生き物が群がり
鳥は 大地の上を飛び
天の空高くへ舞い上がれ... と。

アリア

<ガブリエル>

誇り高いワシは 力強く羽ばたき
太陽に向かい 風を切って飛ぶ。
ヒバリは陽気に 朝のあいさつを さえずる。
そして 愛をこめ...
つがいのハトはくうくと鳴く。
しげみや森の あちこちに
うぐいすの甘美な声が響く。
苦悩も嘆きも知らぬ
うぐいすの可愛いさえずりよ。

レチタティーヴォ

<ラファエル>

神は 大きなクジラと
様々な生き物を創り
祝福して言われた。

産めよ 増えよ
空の鳥は増えて 木々の梢で歌え!
満ち潮に育まれたものよ 増えよ
水の中に 満ち満ちてよ!
産めよ 栄えよ 増えよ
おまえたちの神を 喜び祝え!

Und die Engel rührten ihr' unsterblichen
Harfen, und sangen die Wunder des
fünften Tags.

天使たちは 神の豎琴を奏で
第五日目の奇跡を歌った。

Terzett

<Gabriel >

In holder Anmut steh'n, mit jungem Grün
geschmückt, die wogigten Hügel da.

Aus ihren Adern quillt, in fließendem
Kristall, der kühlende Bach hervor.

<Uriel>

In frohen Kreisen schwebt, sich wiegend
in der Luft, der munteren Vögel Schar.
Den bunten Federglanz erhöht im
Wechselflug das goldene Sonnenlicht.

<Raphael>

Das helle Naß durchblitzt der Fisch, und
windet sich im stätem Gewühl umher.

Vom tiefsten Meeresgrund wälzet sich
Leviathan auf schäumender Well' empor.

<Gabriel, Uriel, Raphael>

Wie viel sind deiner Werk', o Gott!
Wer fasset ihre Zahl?
Wer? O Gott!

Terzett und Chor

Der Herr ist groß in seiner Macht,
und ewig bleibt sein Ruhm.

三重唱

<ガブリエル>

優雅な姿で 新緑に包まれ
高く低く 丘はつづく。

湧き出る水は 澄んでよどみなく
涼しい小川となって流れる。

<ウリエル>

楽しげに輪をかき 空を飛ぶ鳥
はつらつと飛び回る 鳥の群れ。
色とりどりにきらめく翼は
輝く陽の光を浴び 高く飛び交う。

<ラファエル>

清らかな流れに 銀鱗をきらめかせ
魚は群れ泳ぐ。

海の底深くからは
巨大な怪魚が のたうち現れる。

<ガブリエル、ウリエル、ラファエル>

神は 何と多くの事を成されたのか!
その みわざの数を知り得ようか?
誰が? おお...神よ!

三重唱と合唱

神の力は偉大
その誉れは永遠につづく。

Rezitativ

<Raphael>

Und Gott sprach: Es bringe die Erde
hervor lebende Geschöpfe nach ihrer Art;
Vieh und krichendes Gewürm und Tiere
der Erde nach ihren Gattungen.

Rezitativ

<Raphael>

Gleich öffnet sich der Erde Schoß,
und sie gebiert auf Gottes Wort
Geschöpfe jeder Art,
in vollem Wuchs und ohne Zahl.
Vor Freude brüllend steht der Löwe da.
Hier schießt der gelenkige Tiger empor.
Das zackige Haupt erhebt der schnelle
Hirsch.
Mit fliegender Mähne springt und wieh'rt
voll Mut und Kraft, das edle Roß.
Auf grünen Matten weidet schon das Rind,
in Herden abgeteilt.
Die Triften deckt, als wie gesät,
das wollenreiche, sanfte Schaf.
Wie Staub verbreitet sich
in Schwarm und Wirbel das Heer der
Insekten.
In langen Zügen kriecht
am Boden das Gewürm.

Arie

<Raphael>

Nun scheint in vollem Glanze der Himmel;
nun prangt in ihrem Schmucke die Erde.
Die Luft erfüllt das leichte Gefieder;
die Wasser schwellt der Fische Gewimmel;
den Boden drückt der Tiere Last.

レチタティーヴォ

<ラファエル>

神は言われた...
地上に 種々な生き物をもたらせよ。
家畜と 地に這う虫けら
幾多の種類の けものを生み出せ... と。

レチタティーヴォ

<ラファエル>

大地は その懐を開き 御言葉のままに
多数の生き物を 豊かに生み出した。
嬉々として ほえ声をとどろかせ
ライオンは雄々しく立つ。
しなやかな虎は すっと立ち上がる。
すばしこい鹿は 鋭い角をふりかざす。
たてがみをなびかせ 駿馬は跳ね
勇ましくいなく。
緑の草地で
牛は群れをなし 草を食む。
豊かな毛並みの羊が 牧場をおおい
点在する... 柔和な羊。
ちりのように飛び回り
渦を巻く 昆虫の大群。
地をはう虫の 長い行列。

アリア

<ラファエル>

今 天は輝きに満ちて
地上は 華やかな装いに包まれる。
空には 軽やかに飛ぶ鳥
集まる魚の群れに 水は波立つ。
大地は けものの重みに耐えかねる。

Doch war noch alles nicht vollbracht.
Dem Ganzen fehlte das Geschöpf,
das Gottes Werke dankbar seh'n,
des Herren Güte preisen soll.

だが すべてが成就したわけではない
被造物には まだ欠けているものがある。
神のみわざを感謝して眺め
神の恵みを 賛美せよ。

Rezitativ

<Uriel>

Und Gott schuf den Menschen nach
seinem Ebenbilde.
Nach dem Ebenbilde Gottes schuf er ihn.
Mann und Weib erschuf er sie.
Den Atem des Lebens hauchte er in sein
Angesicht, und der Mensch wurde zur
lebendigen Seele.

レチタティーヴォ

<ウリエル>

神は ご自分に似せて人間を創造され
神にかたどって 男と女をつくられた。
神が 命の息を吹き込むと
人は 生きるものとなった。

Arie

<Uriel>

Mit Würd' und Hoheit angetan,
mit Schönheit, Stärk' und Mut begabt,
gen Himmel aufgerichtet, steht der
Mensch, ein Mann und König der Natur.

Die breit gewölbt' erhab'ne Stirn,
verkünd't der Weisheit tiefen Sinn,
und aus dem hellen Blicke strahlt der Geist,
des Schöpfers Hauch und Ebenbild.

An seinen Busen schmieget sich, für ihn,
aus ihm geformt,
die Gattin, hold und anmutsvoll.

In froher Unschuld lächelt sie,
des Frühlings reizend Bild,
ihm Liebe, Glück und Wonne zu.

アリア

<ウリエル>

威厳と気高さを身に備え
美と力を受け
自然の王 男は 天を仰ぎ立ちあがる。

広く品位のある ひたい...
それは深い思慮を思わせる。
澄んだまなざしに 理知と
創造主の息吹きと御姿が 輝き出る。

その胸に 彼のために
彼からつくられた
愛らしく優しい 妻が寄り添う。

その無邪気なほほえみは
心そそる春の風情...
愛を... 幸せと喜びを 微笑みかけてくれる。

Rezitativ

<Raphael>

Und Gott sah jedes Ding, was er gemacht
hatte; und es war sehr gut.
Und der himmlische Chor feierte das Ende
des sechsten Tages mit lautem Gesang.

Chor und Terzett

<Chor>

Vollendet ist das große Werk,
der Schöpfer sieht's und freuet sich.
Auch unsre Freund' erschalle laut!
Des Herren Lob sei unser Lied!

<Gabriel und Uriel>

Zu dir, o Herr, blickt alles auf; um Speise
fleht dich alles an.
Du öffnest deine Hand, gesättigt werden
sie.

<Raphael>

Du wendest ab dein Angesicht,
da bebet alles und erstarrt.
Du nimmst den Odem weg;
in Staub zerfallen sie.

<Gabriel, Uriel, Raphael>

Den Odem hauchst du wieder aus,
und neues Leben sproßt hervor.
Verjüngt ist die Gestalt der Erd'
an Reiz und Kraft.

<Chor>

Vollendet ist das große Werk,
Des Herren Lob sei unser Lied!
Alles lobe seinen Namen;
denn er allein ist hoch erhaben,
alleluja, alleluja.

レチタティーヴォ

<ラファエル>

神は その被造物のすべてを御覧になり
極めて良しと思われた。
天使たちは 六日目の終わりを祝い
声高らかに 歌い寿ぐ。

合唱と三重唱

<合唱>

偉大な御わざは完成し
造り主は それを喜ばれた。
我らの喜びも 高らかに響く。
主を賛美して歌え!

<ガブリエル、ウリエル>

主よ われら神を仰ぎ見て糧を待ち望む
神が み手を開けば すべて満たされる。

<ラファエル>

主が み顔をそむければ
者みな 震えこわばる。
主が 息を取り去れば
みな 死んで土となる。

<ガブリエル、ウリエル、ラファエル>

再び息を吹き込めば
新しい命が 芽生える。
大地は魅力と活力を備え
若々しい姿となる。

<合唱>

偉大なわざは 成し遂げられた
主の誉れを 賛美せよ!
主の御名を讃えよ
主のみ いと高し アレルヤ!

Dritter Teil

Rezitativ

<Uriel>

Aus Rosenwolken bricht, geweckt durch
süßen Klang, der Morgen jung und schön.

Vom himmlischen Gewölbe
strömt reine Harmonie zur Erde hinab.

Seht das beglückte Paar,
wie Hand in Hand es geht!
Aus ihren Blicken strahlt
des heißen Danks Gefühl.

Bald singt in lautem Ton
ihr Mund des Schöpfers Lob.
Laßt uns're Stimme dann
sich mengen in ihr Lied!

Duett und Chor

<Adam und Eva>

Von deiner Güt', o Herr und Gott,
ist Erd' und Himmel voll.
Die Welt, so groß, so wunderbar,
ist deiner Hände Werk.

<Chor>

Gesegnet sei des Herren Macht!
Sein Lob erschall' in Ewigkeit!

<Adam>

Der Sterne hellster, o wie schön
verkündest du den Tag!
Wie schmückst du ihn, o Sonne, du,
des Weltalls Seel' und Aug!

<Chor>

Macht kund auf eurer weiten Bahn
des Herren Macht und seinen Ruhm!

第Ⅲ部

レチタティーヴォ

<ウリエル>

ばら色の雲を通して 甘い響きは
爽やかな朝の目覚めを告げる。

神々しい大空から 地上に
清らかなハーモニーが流れる。

見よ 手に手を取り
楽しげに歩むふたりを
その瞳には 心からの感謝があふれる。

ふたりは声高らかに
創造主への賛歌を歌う。
われらも 声を合わせ歌おう!

二重唱と合唱

<アダム、イヴ>

その恵みにより おお 主なる神よ
天も地も満たされる。
世界は とても広くて 素晴らしい
それは 神の御手のわざ。

<合唱>

主の御力に祝福あれ
主の誉れは 永遠に響き渡る。

<アダム>

あかるく光る 明けの星よ
何と美しい朝の訪れ!
おお 太陽よ 美しき光よ
おまえは宇宙の魂 世界の眼!

<合唱>

広大な天の軌道をたどり
神の力と栄誉を示しておくれ

<Eva>

Und du, der Nächte Zierd' und Trost,
und all das strahlend Heer,
verbreitet überall sein Lob,
in euerm Chorgesang!

<Adam>

Ihr Elemente, deren Kraft
stäts neue Formen zeugt,
ihr Dünst' und Nebel, die der Wind
versammelt und vertreibt.

<Alle>

...Lobsinget alle Gott dem Herrn!
Groß, wie sein Nam', ist seine Macht.

<Eva>

Sanft rauschend lobt, o Quellen, ihn!
Den Wipfel neigt, ihr Bäum'!
Ihr Pflanzen düftet, Blumen haucht
ihm euern Wohlgeruch!

<Adam>

Ihr, deren Pfad die Höh'n erklimmt,
und ihr, die niedrig kriecht,
ihr, deren Flug die Luft durchschneid't,
und ihr, im tiefen Naß.

<Alle>

Ihr Tiere preiset alle Gott!
Ihn lobe, was nur Odem hat!

<Adam und Eva>

Ihr dunklen Hain', ihr Berg' und Tal,
ihr Zeugen uns'res Danks;
ertönen sollt ihr früh und spät
von uns'rem Lobgesang!

<イヴ>

夜を美しく飾り 慰めてくれる
光かがやく星よ
神の誉れを 賛美の歌で
あらゆる所に 広めておくれ。

<アダム>

自然の力は
絶えず 新しい形を造り出す。
かすみや霧は
立ち込めては 消えてゆく。

<全員>

われらの主 神を讃えよ
偉大な神の御名を讃えよ。

<イヴ>

泉は 静かなせせらぎの音で神を讃え
木は こずえを垂れて神を誉めよ!
草木よ薫れ 主のために
花よ かぐわしい香りを届けよ。

<アダム>

岩山をよじ登るもの 地を這うもの
空を飛ぶ鳥 水底深く住むもの。

<全員>

もの皆すべて 神を讃えよ!
命あるものは皆 神を賛美せよ!

<アダム、イヴ>

緑深い森よ 丘よ 谷よ
これは皆 神の誉れの あかし
朝に夕に 賛美の歌を鳴り響かせよ。

<Chor>

Heil dir, o Gott! o Schöpfer, Heill
Aus deinem Wort entstand die Welt.
ich beten Erd' und Himmel an;
wir preisen dich in Ewigkeit.

Rezitativ

<Adam>

Nun ist die erste Pflicht erfüllt;
dem Schöpfer haben wir gedankt.
Nun folge mir, Gefährtin meines Lebens!
Ich leite dich, und jeder Schritt
weckt neue Freud' in uns'rer Brust,
zeigt Wunder überall.
Erkennen sollst du dann,
welch' unaussprechlich Glück
der Herr uns zugehacht,
ihn preisen immerdar,
ihm weihen Herz und Sinn.
Komm, folge mir! Ich leite dich.

<Eva>

O du, für den ich ward!
Mein Schirm, mein Schild, mein All!
Dein Will' ist mir Gesetz.
So hat's der Herr bestimmt,
und dir gehorchen bringst mir Freude,
Glück und Ruhm.

Duett

<Adam>

Holde Gattin! Dir zur Seite
fließen sanft die Stunden hin.
Jeder Augenblick ist Wonne;
keine Sorge trübet sie.

<Eva>

Teurer Gatte! Dir zur Seite
schwimmt in Freuden mir das Herz.

<合唱>

おお 万物の創造主に平安あれ!
御言葉により世界は生まれた。
天と地は 主をことほぎ
われらは 永遠に誉め讃える。

レチタティーヴォ

<アダム>

創り主に感謝を捧げて
われらの最初の務めを終えた。
さあ 私についておいで 生涯の伴侶よ!
私が導こう 歩むたびに喜びは胸に溢れ
奇跡は あたりに満ち溢れる。
主が与え給うた 尽きぬ幸せを受けて
いつも主を誉め 心と想いを捧げよう。
おいで さあ 私についておいで!
私が導こう。

<イヴ>

あなた... あなた故のわたしです!
私の保護者 私の総て
あなたは私の掟。
これは 主が決められたこと
従うことは 私の喜び 幸せ 誉れです。

二重唱

<アダム>

優しい妻よ! きみのそばに居ると
時は おだやかに過ぎてゆく
いつも喜びに満たされ
不安におびえることはない。

<イヴ>

愛しいあなた! あなたの傍にいと
心は 喜びに溢れます。

Dir gewidmet ist mein Leben;
deine Liebe sei mein Lohn.

<Adam>

Der tauende Morgen, o wie ermuntert er!

<Eva>

Die Kühle des Abends,
o wie erquicket sie!

<Adam>

Wie labend ist der runden Früchte Saft!

<Eva>

Wie reizend ist der Blumen süßer Duft!

<Beide>

Doch ohne dich, was wäre mir.
der Morgentau, der Abendhauch,
der Früchte Saft, der Blumen Duft!
Mit dir erhöht sich jede Freude,
mit dir genieß'ich doppelt sie;
mit dir ist Seligkeit das Leben;
dir sei es ganz geweiht.

Rezitativ

<Uriel>

O glücklich Paar, und glücklich immerfort,
wenn falscher Wahn euch nicht verführt
noch mehr zu wünschen, als ihr habt,
und mehr zu wissen, als ihr sollt!

Schusschor

Singt dem Herren alle Stimmen!
Dankt ihm, alle seine Werke!
Laßt zu Ehren seines Namens
Lob im Wettgesang erschallen!
Des Herren Ruhm, er bleibt in Ewigkeit!
Amen!

私の命は あなたのもの
あなたの愛が 報いてくださる。

<アダム>

朝露は 皆を元気に目覚めさせる

<イヴ>

夕暮れの冷気は 何と爽やかなんでしょう

<アダム>

熟れた果汁は 元気をつけてくれる。

<イヴ>

甘い花の香りは なんて素敵!

<二人>

けれど あなたがいなければ...
それが何の役に立つでしょう。
朝露も... 夕暮れの涼風も...
甘い果汁も... 花の香りも...
あなたと一緒になら...
喜びは大きく 楽しみは二倍に
あなたが居れば 人生は楽しい
あなたに すべてを捧げましょう。

レチタティーヴォ

<ウリエル>

幸せな二人の者よ
永遠の幸せ あれ!
邪悪な幻想に惑わされず
自分をわきまえ 賢明であれ!

終結合唱

主に向かい 声を合わせて歌え!
すべての御わざに 感謝を捧げよ!
御名に栄えあれ。
賞賛の声を 競いあい鳴り響かせよ。
主の栄光は 永遠!
アーメン